

現在、南米エクアドルのコハ県にある障害者施設で、言語聴覚士として活動している寺田有花利と申します。時が経つのも早いもので、こちらに来て約 1 年 8 か月が経過しました。私の主な役割は、施設で言語療法を担当する同僚への技術移転です。当施設では、言語療法の専門資格を持つ職員がいない中で、子どもたちの成長を支えています。私の活動は発達・言語評価の導入や個別訓練の指導を通して、利用者一人一人に合った支援方法を同僚と共に考えながら、発達や生活全体を見ることの大切さを伝えています。

ここでは、活動先で取り組んでいる主な活動をご紹介します。

①同僚への技術移転

同僚への言語療法に関する技術移転は発達・言語評価から個別訓練の進め方まで多岐にわたります。毎週金曜日には勉強会を開催し、発達の特性や言語療法の基礎知識を共有するとともに、評価に必要な検査・教材の作成にも取り組んでいます。



1日の活動例		
午前	9:00	活動開始/1日の予定確認/挨拶準備
	9:30	情緒施設利用児への言語リハビリ実施
	10:00	同僚への言語リハビリ支援 (同行・訓練内容の検討)
	12:00	勉強会資料作成・事務作業
午後	13:00	昼食
	14:00	同僚の発達・言語評価への同行・評価方法の指導
	15:00	カルタ記入・資料作成
	17:00	活動終了
	18:00	帰宅

勉強会の様子

② 家庭での支援に向けた取り組み

施設を利用しているお子さんたちは施設で過ごす時間よりもご家庭で過ごす時間の方が長くなります。そのため、ご家族にもお子さんとの適切な関わり方について、理解を深めていただけるよう同僚と協力して講習会を実施しています。家庭でもできる言語支援方法を紹介し、保護者とともに子どもの成長を支えられるよう取り組んでいます。

エクアドルで過ごす中で日本との大きな違いを感じたのは、「障害児・者の方が学校を卒業した後、どう過ごすのか」という点です。日本では就労や福祉サービスなどさまざまな選択肢がありますが、私の任地ではまだ限られています。卒業後は社会との接点が減り、家族に支えられながら家庭で過ごす方も多くいます。残りの任期では利用者一人一人の可能性や将来の生活を見据えながら、支援を続けていきたいと思っています。